1B03 8181

レンジフード 取付説明書

※裏面は型紙（原寸大）になっておりますので
あわせてご利用ください。

取扱説明書・取付説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。

安全上のご注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」「注意」の 2 つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

⚠警 告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。

⚠注 意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

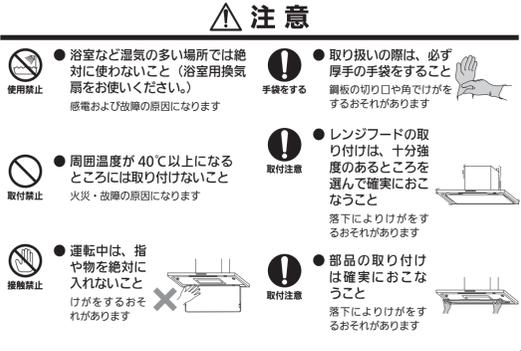
絵表示の例

- ⃠ 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
- ● 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

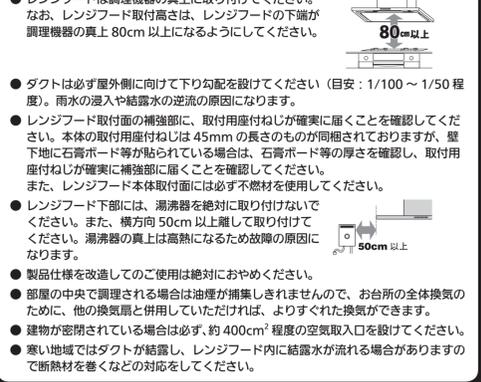
⚠ 警 告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと（分解・修理・改造禁止）
  発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
- 交流 100V 以外では使用しないこと（使用禁止）
  火災・感電の原因になります
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと（埋込禁止）
  漏電した場合、発火するおそれがあります
- 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと（取付注意）
  火災などの原因になります
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと（取付注意）
  誤った配線工事は感電や火災の原因になります
- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取り付けること（取付注意）
  漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
- レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと（取付注意）
  火災などの原因になります
  詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください
- レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること（取付注意）
  漏電した場合、発火するおそれがあります
- アースを確実に取り付けること（アースを取り付ける）
  故障や漏電のときに感電するおそれがあります
  アースの取り付けは販売店にご相談ください
- 自然排気型のストーブを使用するときは、空気の取入口（給気口）により十分給気される配慮をすること（取付注意）
  排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります

⚠ 注 意

- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください。）（使用禁止）
  感電および故障の原因になります
- 周囲温度が 40℃以上になるところには取り付けないこと（取付禁止）
  火災・故障の原因になります
- 運転中は、指や物を絶対に入れないこと（接触禁止）
  けがをするおそれがあります
- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること（手袋をする）
  鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
- レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと（取付注意）
  落下によりけがをするおそれがあります
- 部品の取り付けは確実におこなうこと（取付注意）
  落下によりけがをするおそれがあります

取り付け上のお願い

- **下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります。**
  - **大工工事【設置のための下地工事等】**
  - **配線工事【コンセントの設置、コンセント・コネクター利用以外の配線接続等】**
  - **管工事【ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等】**

  流通業者（販売店）を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。
- ダクトの不燃処理について
  - ダクトを 50mm 以上の不燃材料、または 20mm 以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
  - 施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」・「検査要領書」に従ってください。
- 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。
  調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。排気効率が低下します。
- 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は $400m^3/h$ 時 50Pa 以下のものをご使用ください。
  防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。
- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気効果をいちじるしく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。
- レンジフードは調理機器の真上に取り付けてください。
  なお、レンジフード取付高さは、レンジフードの下端が調理機器の真上 80cm 以上になるようにしてください。（80cm以上）
- ダクトは必ず屋外側に向けて下り勾配を設けてください（目安：1/100 ～ 1/50 程度）。雨水の浸入や結露水の逆流の原因になります。
- レンジフード取付面の補強部に、取付用座付ねじが確実に届くことを確認してください。本体の取付用座付ねじは 45mm の長さのものが同梱されておりますが、壁下地に石膏ボード等が貼られている場合は、石膏ボード等の厚さを確認し、取付用座付ねじが確実に補強部に届くことを確認してください。
  また、レンジフード本体取付面には必ず不燃材を使用してください。
- レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けないでください。また、横方向 50cm 以上離して取り付けてください。湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因になります。（50cm 以上）
- 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。
- 部屋の中央で調理される場合は油煙が捕集しきれませんので、お台所の全体換気のために、他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。
- 建物が密閉されている場合は必ず、約 $400cm^2$ 程度の空気取入口を設けてください。
- 寒い地域ではダクトが結露し、レンジフード内に結露水が流れる場合がありますので断熱材を巻くなどの対応をしてください。

取り付け前の調査と準備

⚠ 警 告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと（分解・修理・改造禁止）
  発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと（埋込禁止）
  漏電した場合、発火するおそれがあります
- 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと（取付注意）
  火災などの原因になります
- レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと（取付注意）
  火災などの原因になります
  詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください
- レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること（取付注意）
  漏電した場合、発火するおそれがあります

⚠ 注 意

- 周囲温度が 40℃以上になるところには取り付けないこと（取付禁止）
  火災・故障の原因になります
- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること（手袋をする）
  鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
- レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと（取付注意）
  落下によりけがをするおそれがあります

1 取付面の強度確認
製品を支える強さが必要です。

製品質量	25kg

■板張りの場合（取付面は必ず不燃処理をおこなってください）
- 板厚が 20mm 未満の場合には壁に補強板を埋め込み、補強板にレンジフードを取り付けてください。
- 板厚が 20mm 以上の場合は補強板の必要はありません。

■コンクリート、タイル壁の場合
- あらかじめ補強板を壁に埋め込んでおくか、カールプラグ等を使用し固定してください。

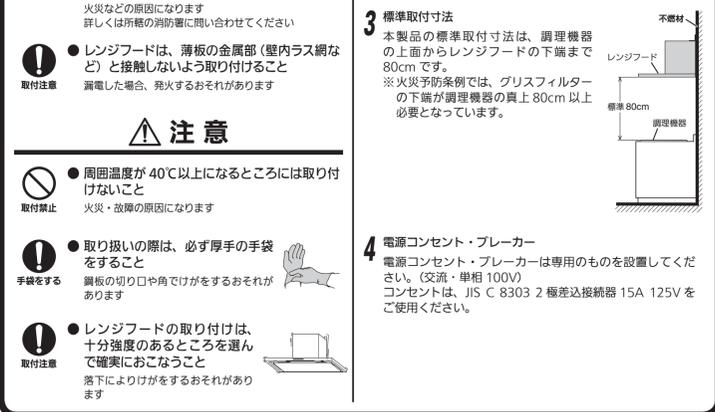
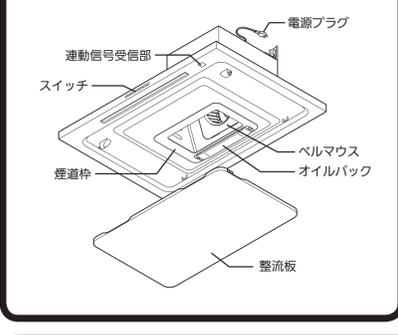
■土壁の場合
- 柱などに固定した補強板をあらかじめ壁に埋め込んでください。

2 別売部品の準備
排気工事に応じた別売部品の準備が事前に必要です。

3 標準取付寸法
本製品の標準取付寸法は、調理機器の上面からレンジフードの下端まで 80cm です。
※火災予防条例では、グリスフィルターの下端が調理機器の真上 80cm 以上必要となっています。
（不燃材／レンジフード／標準 80cm／調理機器）

4 電源コンセント・ブレーカー
電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。（交流・単相 100V）
コンセントは、JIS C 8303 2 極差込接続器 15A 125V をご使用ください。

各部のなまえ

電源プラグ／連動信号受信部／スイッチ／ベルマウス／オイルパック／煙道枠／整流板

付属品

座付ねじ（φ 5.1 × 45）6 本
本体および本体取付桟の取り付けに使います。

ソフトテープ　1 本
排気口とダクトとのすきまをふさぐのに使います。

排気口　1 個
本体とダクトの接続に使います。
逆風防止シャッター付きです。

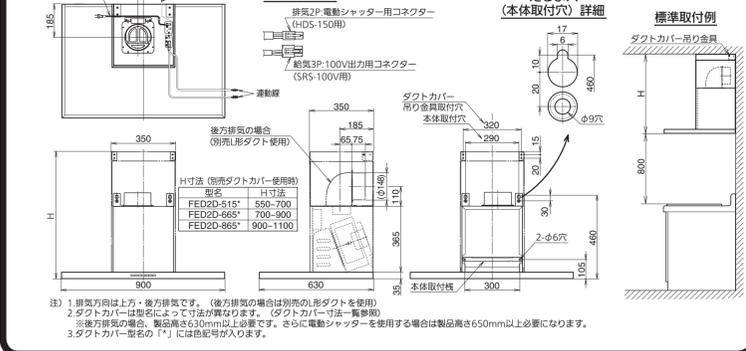
本体取付桟　1 個
本体の取り付けに使います。

製品寸法図

H寸法（別売ダクトカバー使用時）

型名	H寸法
FED2D-515*	550~700
FED2D-665*	700~900
FED2D-865*	900~1100

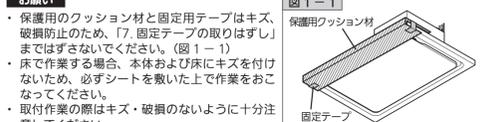
注）1.排気方向は上方・後方排気です。（後方排気の場合は別売のL形ダクトを使用）
2.ダクトカバーは型名によって寸法が異なります。（ダクトカバー寸法一覧参照）
※後方排気の場合、製品高さ630mm以上必要です。さらに電動シャッターを使用する場合は製品高さ650mm以上必要になります。
3.ダクトカバー型名の「*」には色記号が入ります。

取り付けかた

1. 付属品の確認

⚠ 注 意

- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること（手袋をする）
  鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

付属品を確認します。
梱包箱から排気口、ねじ等の付属品を取り出し、上項の付属品一覧により不足がないか確認してください。

お願い
- 保護用のクッション材と固定用テープはキズ、破損防止のため、「7. 固定テープの取りはずし」まではずさないでください。（図 1 － 1）
- 床で作業する場合、本体および床にキズを付けないため、必ずシートを敷いた上で作業をおこなってください。
- 取付作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。

2. 排気方向の決定

⚠ 警 告

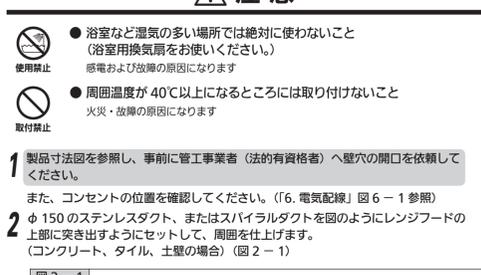
- 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと（取付注意）
  火災などの原因になります
- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないように取り付けること（取付注意）
  漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
- レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと（取付注意）
  火災などの原因になります
  詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください

⚠ 注 意

- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください。）（使用禁止）
  感電および故障の原因になります

- 周囲温度が 40℃以上になるところには取り付けないこと（取付禁止）
  火災・故障の原因になります

1 製品寸法図を参照し、事前に管工事業者（法的有資格者）へ壁穴の開口を依頼してください。
また、コンセントの位置を確認してください。（「6. 電気配線」図 6 － 1 参照）

2 φ 150 のステンレスダクト、またはスパイラルダクトを図のようにレンジフードの上部に突き出すようにセットして、周囲を仕上げます。
（コンクリート、タイル、土壁の場合）（図 2 － 1）

3. 排気用部品の準備

※「1. 付属品の確認」の項で取り出した排気口を用意してください。

■ 上方排気の場合（図 3 － 1）
1）排気口に付属品のソフトテープを貼り付けます。
2）本体に付いている取付ねじ 2 本を取りはずし、付属品の排気口を差込部に差し込み、取付ねじで取り付けます。
※取付方向は右図を参照してください。
※取付ねじ近傍のねじは取りはずさないでください。

■ 後方排気の場合（別売の L 形ダクトを使用する場合）（図 3 － 2）
排気口に付属品のソフトテープを貼り、L 形ダクトに取り付けます。
取付方向は、シャッターの開閉方向が下方になり、レンジフードを運転していないときはシャッターが閉じるように取り付けます。
排気口は、L 形ダクトに付属している取付ねじ（M4 × 8）4 本で L 形ダクトに取り付けてください。
※ 本体への取り付けは、本体の取り付け後におこないます。（「5. ダクトと排気用部品の接続」参照）

お願い
L 形ダクトを使用しないで、排気口に直接ダクトを接続して後方排気する場合は、シャッターの開く向きに注意して排気口を取り付けてください。
下図の「誤った接続例」の場合、排気不良や異音の原因になります。

4. 本体の取り付け

⚠ 注 意

- レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと（取付注意）
  落下によりけがをするおそれがあります

- 部品の取り付けは確実におこなうこと（取付注意）
  落下によりけがをするおそれがあります

お願い
- レンジフードの前後および左右方向の水平を確実にだしてください。水平に設置されていないと、本体内部の汚れ（油）が各部のすきまから調理面に滴下することがあります。
- キッチンパネルの上端部をレンジフード下部壁面に入れ込んで設置する場合、レンジフードと壁面のすきまに挟み込む部材は不燃性のものを使用してください。可燃物を使用した場合、火災の原因になるおそれがあります。

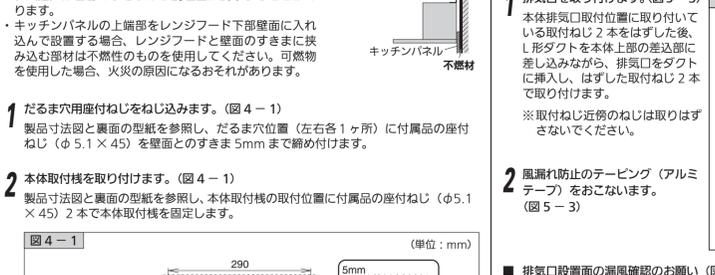
1 だるま穴用座付ねじをねじ込みます。（図 4 － 1）
製品寸法図と裏面の型紙を参照し、だるま穴位置（左右各 1 ヶ所）に付属品の座付ねじ（φ 5.1 × 45）を壁面とのすきま 5mm まで締め付けます。

2 本体取付桟を取り付けます。（図 4 － 1）
製品寸法図と裏面の型紙を参照し、本体取付桟の取付位置に付属品の座付ねじ（φ5.1 × 45）2 本で本体取付桟を固定します。

図 4 － 1（単位：mm）
290／だるま穴／5mm／座付ねじ（φ5.1×45）／460／本体取付桟／300／105

3 本体を引っ掛けます。（図 4 － 2）
本体のだるま穴を座付ねじに引っ掛けながら（①）、本体背面の溝を本体取付桟に引っ掛けます（②）。

お願い
上方排気の場合はダクトに排気口を差し込みながら本体を取り付けてください。

4 本体を固定します。（図 4 － 3）
1）だるま穴下のφ 9 穴（左右各 1 ヶ所）に付属品の座付ねじ（φ 5.1 × 45）をしっかりと締め付けます（①）。
2）だるま穴の座付ねじ（φ 5.1 × 45）をしっかりと締め付けます（②）。

5. ダクトと排気用部品の接続

お願い
ドリリングタッピンねじなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじがあたらないように図を参照してドリリングタッピンねじ使用範囲以内に固定してください。（図 5 － 1）

■ 上方排気の場合
ダクトと排気口の接続部に風漏れ防止のテーピング（アルミテープ）をおこないます。（図 5 － 2）

図 5 － 2
アルミテープ／ダクト

■ 後方排気の場合（別売の L 形ダクトを使用する場合）

1 排気口を取り付けます。（図 5 － 3）
本体排気口取付位置に取り付いている取付ねじ 2 本をはずした後、L 形ダクトを本体上部の差込部に差し込みながら、排気口をダクトに挿入し、はずした取付ねじ 2 本で取り付けます。
※取付ねじ近傍のねじは取りはずさないでください。

2 風漏れ防止のテーピング（アルミテープ）をおこないます。（図 5 － 3）

■ 排気口設置面の漏風確認のお願い（図 5 － 4）
排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトにレンジフードの排気口を接続しようとすると、排気口と排気口の設置面（製品天面等）が変形し、風漏れが発生してしまう場合があります。
風漏れ確認のために、ダクトと接続後は試運転（強運転）をおこなってください。
漏風する場合は、排気口と設置面の周りをアルミテープ等（現場調達品）で漏風防止処置をおこなってください。

図 5 － 4
ダクト／排気口／アルミテープ等／設置面（製品天面等）

6. 電気配線

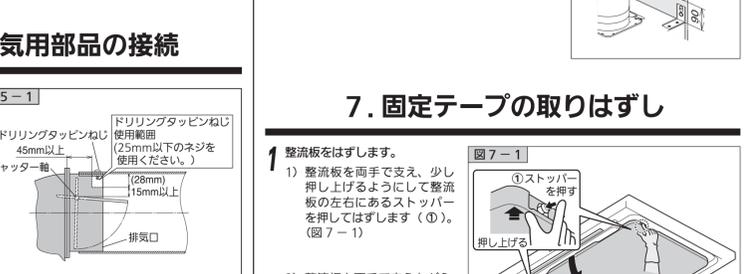
⚠ 警 告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと（分解・修理・改造禁止）
  発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります

- 交流 100 V以外では使用しないこと（使用禁止）
  火災・感電の原因になります
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと（取付注意）
  誤った配線工事は感電や火災の原因になります

- アースを確実に取り付けること（アースを取り付ける）
  故障や漏電のときに感電するおそれがあります
  アースの取り付けは販売店にご相談ください

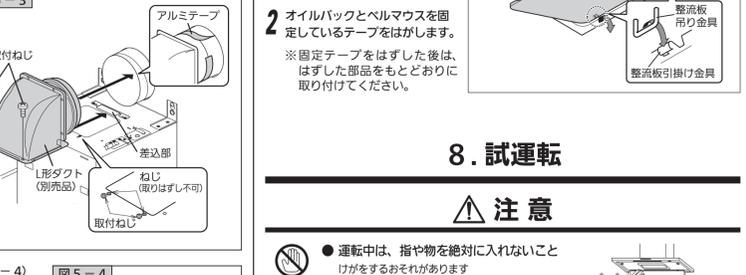
1）アース（D 種接地工事）を取ります。

2）分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。

お願い
- 電源は専用のコンセント（2 極差込接続器 15 A、125V）およびブレーカーを設けてください。
- 「8. 試運転」までブレーカーは「入」にしないでください。
- コンセントは電源コードの長さを考慮し、右図の斜線範囲内に設置してください（図 6 － 1）。

7. 固定テープの取りはずし

1 整流板をはずします。
1）整流板を両手で支え、少し押し上げるようにして整流板の左右にあるストッパーを押してはずします（①）。（図 7 － 1）
2）整流板を両手で支えながら下へゆっくりとおろします（②）。（図 7 － 1）

3）整流板の後ろを持ち上げ、整流板吊り金具からはずします。（図 7 － 2）
※必ず左右同時にはずしてください。
整流板引掛け金具の変形の原因になります。

2 オイルパックとベルマウスを固定しているテープをはがします。
※固定テープをはずした後は、はずした部品をもとどおりに取り付けてください。

8. 試運転

⚠ 注 意

- 運転中は、指や物を絶対に入れないこと（接触禁止）
  けがをするおそれがあります

- 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
- 最終設置した状態で試運転してください。
- 運転時、各速調の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。
- 異常な騒音、振動がないことを確認してください。
- 屋外の排気出口から排気され、異音がないことを確認してください。
- 取り付けまたは各種工事にて発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。
- 製品保護のため、はずした保護用のクッション材をもとの状態に取り付けてください。

9. お客様への説明

- 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
- 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様にお渡しください。

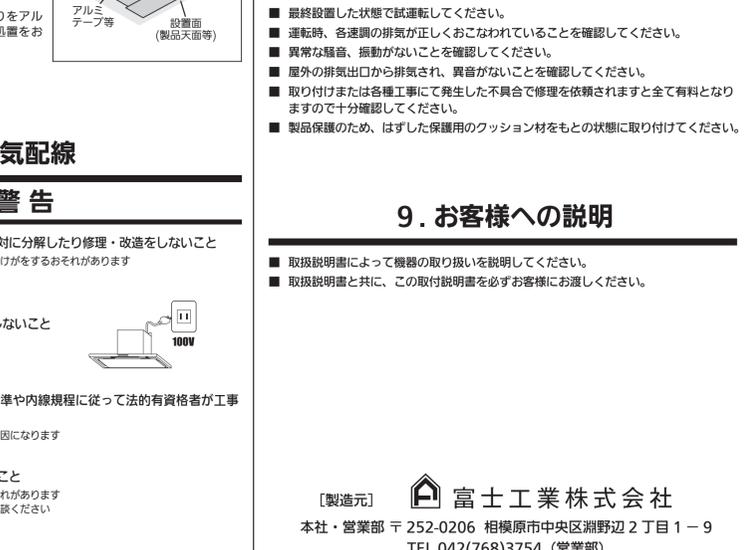
［製造元］ 富士工業株式会社
本社・営業部 〒 252-0206 相模原市中央区淵野辺 2 丁目 1 － 9
TEL 042(768)3754（営業部）

1B03 8181

原寸大型紙 (寸法単位は mm)

お願い

この型紙は湿気の影響で 2 ～ 3mm 誤差が生ずることがあります。
寸法をお確かめの上ご使用ください。

取扱説明書・取付説明書は必ず使用されるお客様にお渡しください。

※表面は取付説明書になっています。よくお読みになり正しく取り付けをおこなってください。